

日十二月三年七和昭

號一十八百三十三第三

[日曜日]

新 城 鏡

〔可認物便郵種三第三上五三四〕

夕刊 吉城新聞

童話 けんくわ（下）

千葉省三

けれど、玉はやつぱりだまつた。さきたくても口が動かないらしい。頬つべとつせん玉はうううとうなつのあたりをピクピクさせて力いっぱい金ちゃんをながら、まつさをになつて棒のやうに立つてゐた。

金ちゃんは足がらかげて歩をねちだふした。そして馬乗りにまたがつて金ちゃんは足が上になつておれらは早くなんとか云へばいいのにと思ひながら胸をドクドクさせてゐた。

「云はねな、どうしても云はねな」金ちゃんはおどがす様になつてやがんだ。

「ぶんなくわ」四年生のやつら、てんでにぎりだした、金ちゃんはつりこまれたやうに、げんこつを固めるといきなり玉の横々面、ガンとなくつた。玉は丸なんばのやうに草の上へぶつたふれた。けれどどうしたのか起き上り、おれらは丑が起き上つた。

「ぶんなくわ」金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

今はどうちが勝つか誰の眼にもわからなかつた。あらをしのやうに黙りこくつて戦つてゐた。金ちゃんは大聲でどなりたままで土ほりの中をころもたまし、この腰に力もなくなつて、なぐらへされた。金ちゃんはもうはねかへられた。金ちゃんはおどがす様にならぬいちどきに立上つた。

金ちゃんはおれひどい金ちゃんがよくなつた。これを見ると四年生はみんないちらに立上つた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんはおれひどい金ちゃんがよくなつた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

で押してゐた。金ちゃんは足がらかげて歩をねちだふした。そして馬乗りにまたがつて金ちゃんは足が上になつておれらは早くなんとか云へばいいのにと思ひながら胸をドクドクさせてゐた。

「云はねな、どうしても云はねな」金ちゃんはおどがす様になつてやがんだ。

「ぶんなくわ」四年生のやつら、てんでにぎりだした、金ちゃんはつりこまれたやうに、げんこつを固めるといきなり玉の横々面、ガンとなくつた。玉は丸なんばのやうに草の上へぶつたふれた。けれどどうしたのか起き上り、おれらは丑が起き上つた。

「ぶんなくわ」金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

金ちゃんは眞亦んなつて祭つて起きるより早く、五ツ六ツなくつつけた。

潮聲參差抄帖

高月會 三月例會

（田打）佐藤素秋

（同）同

（同）同</p

